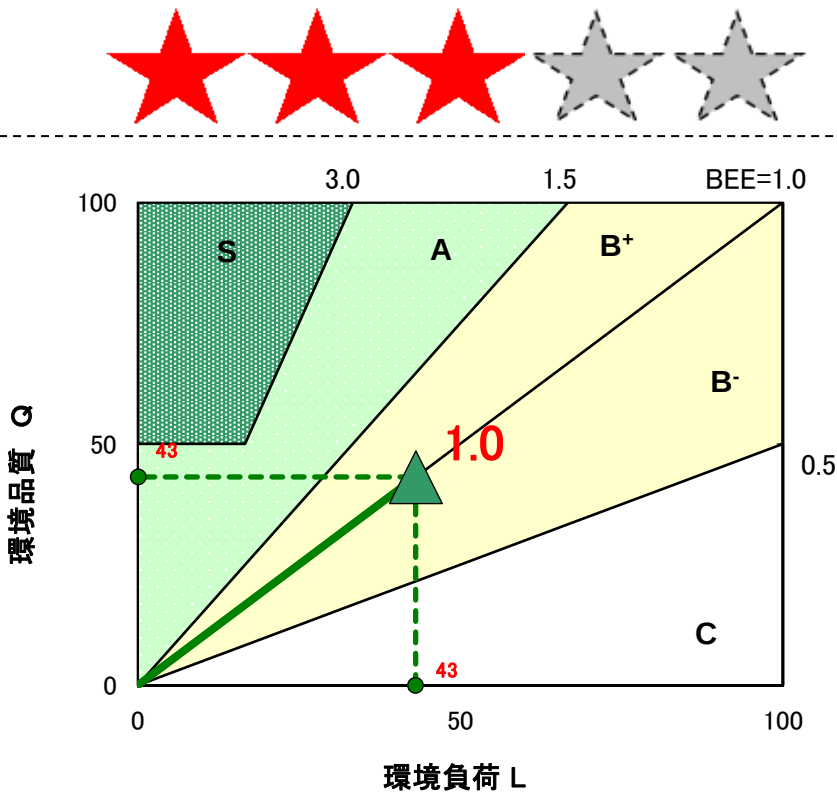


CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要			■ 外観	
建物名称	(仮称) TRIAL上熊本店	階数	地上1F	
建設地	熊本県熊本市西区上熊本3丁目365	構造	S造	
用途地域	準工業地域,指定なし	平均居住人員	450 人	
気候区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年	
建物用途	物販店,	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2021年2月 予定	評価の実施日	2020年6月3日	
敷地面積	20,220 m ²	作成者	園田	
建築面積	9,772 m ²	確認日	2020年6月4日	
延床面積	9,935 m ²	確認者	伊東	

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



BEE = 1.0

■BEE(環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



排出率

79%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

70

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

評価点

76.2

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

62.5

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

60.0

【重点事項4】 循環型社会の実現

74.2

■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

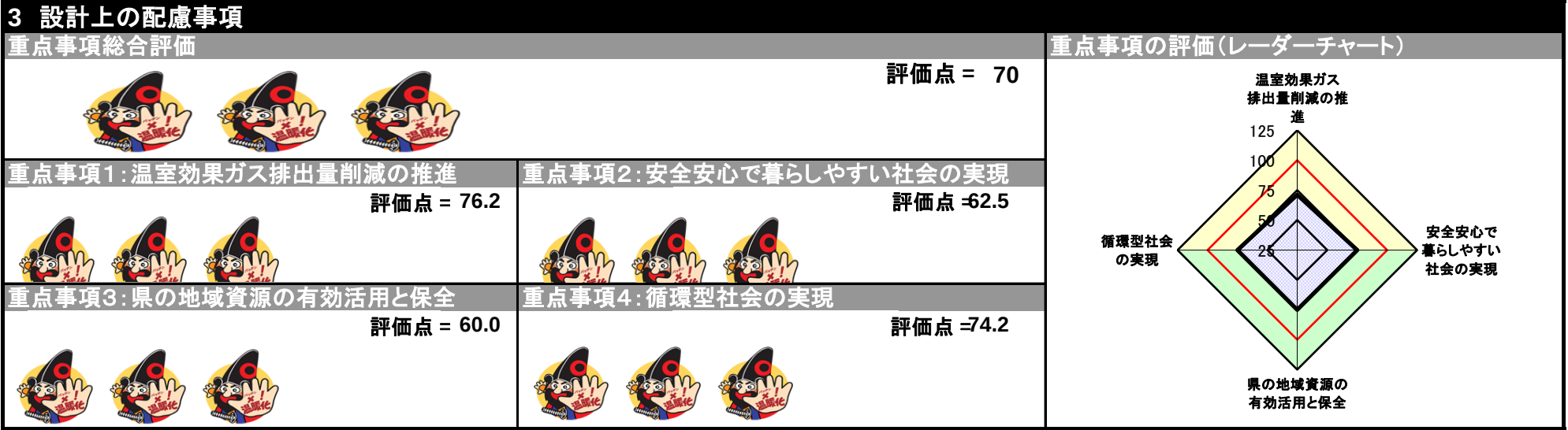
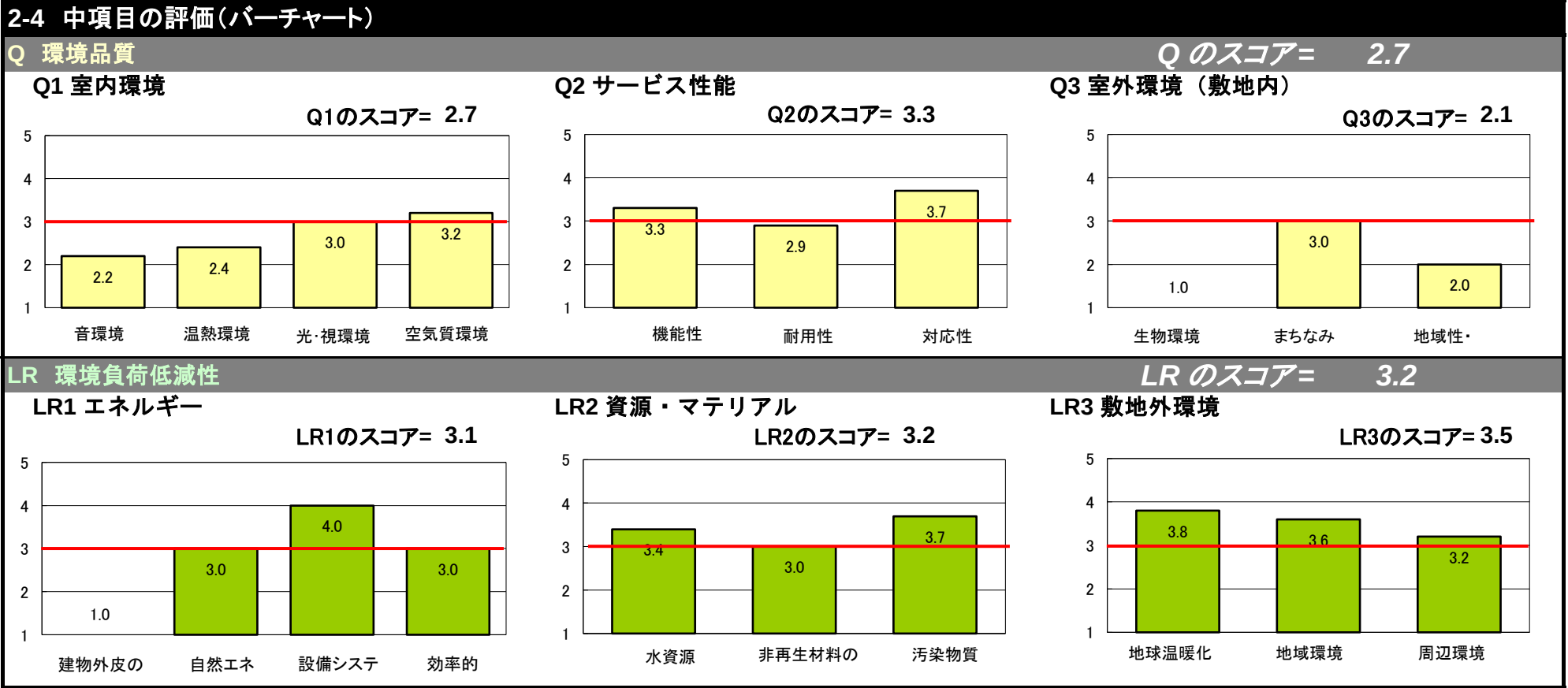
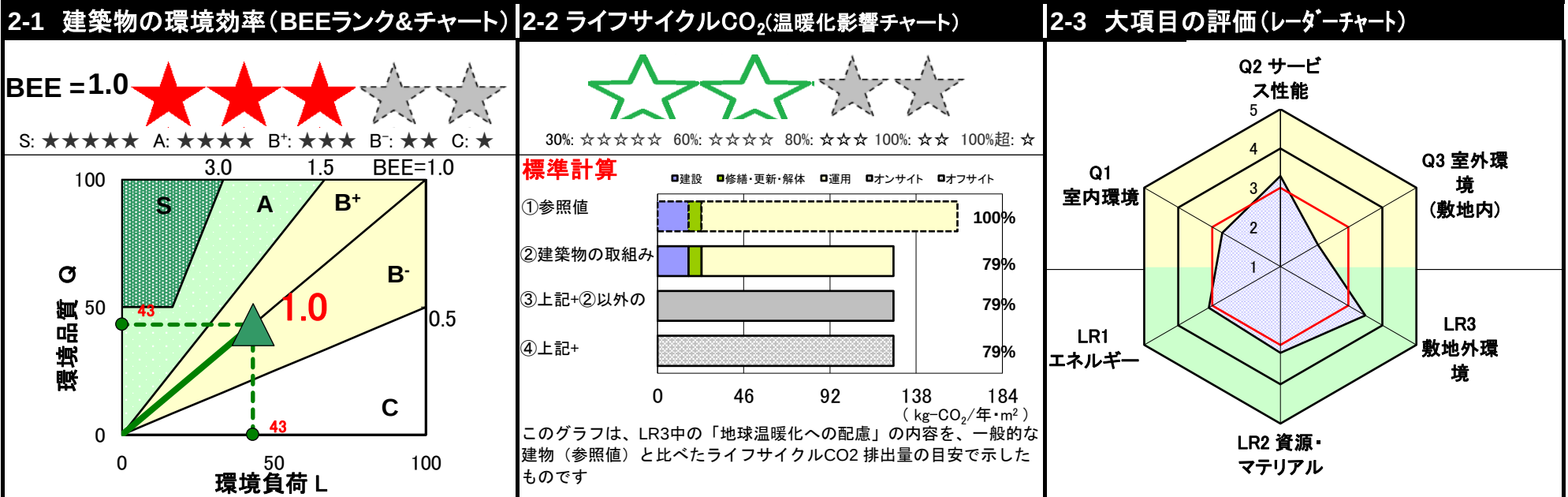
※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 I使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)TRIAL上熊本店	階数		
建設地	熊本県熊本市西区上熊本3丁目365-	地上1F		
用途地域	準工業地域,指定なし	構造		
地域区分	7地域	平均居住人員		
建物用途	物販店,	年間使用時間		
竣工年	2021年2月 予定	評価の段階		
敷地面積	20,220 m ²	評価の実施日	2020年6月3日	
建築面積	9,772 m ²	作成者	園田	
延床面積	9,935 m ²	確認日	2020年6月4日	
		確認者	伊東	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)TRIAL上熊本店

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								2.7	
Q1 室内環境					0.40		-	2.7	
1 音環境				2.2	0.15	-	-	2.2	
1.1 室内騒音レベル		一般商店:50dB(A)		4.0	0.40	-	-		
1.2 遮音				1.0	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能				1.0	1.00	-	-		
2 界壁遮音性能				-	-	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-		
1.3 吸音				1.0	0.20	-	-		
2 温熱環境				2.4	0.35	-	-	2.4	
2.1 室温制御				3.0	0.50	-	-		
1 室温				3.0	0.50	-	-		
2 外皮性能				3.0	0.17	-	-		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.33	-	-		
2.2 湿度制御				3.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式				1.0	0.30	-	-		
3 光・視環境				3.0	0.25	-	-	3.0	
3.1 昼光利用				3.0	0.50	-	-		
1 昼光率				-	-	-	-		
2 方位別開口				-	-	-	-		
3 昼光利用設備				3.0	1.00	-	-		
3.2 グレア対策				-	-	-	-		
1 昼光制御				-	-	-	-		
3.3 照度				-	-	-	-		
3.4 照明制御				3.0	0.50	-	-		
4 空気質環境				3.2	0.25	-	-	3.2	
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質		使用する建築材料は全てF☆☆☆☆		4.0	1.00	-	-		
4.2 換気				2.0	0.30	-	-		
1 換気量				3.0	0.50	-	-		
2 自然換気性能				-	-	-	-		
3 取り入れ外気への配慮				1.0	0.50	-	-		
4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御				3.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.3	
1 機能性				3.3	0.40	-	-	3.3	
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	-	-		
1 広さ・収納性				-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応				-	-	-	-		
3 バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性				3.6	0.30	-	-		
1 広さ感・景観		売場天井高:3.99m		5.0	0.33	-	-		
2 リフレッシュスペース				2.0	0.33	-	-		
3 内装計画		3つの項目に該当		4.0	0.33	-	-		
1.3 維持管理				3.5	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		①内壁に防塵・ヨゴレ止め塗装③作業室や生ゴミ庫は水勾配⑤風除室の1次扉と2次扉間の距離:7.8m⑥維持管理方法が大きく異なる床材の接近なし⑩露出鉄骨部は溶融亜鉛メッキ仕上⑪極力段差の無い設		4.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		≧1		3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				2.9	0.30	-	-	2.9	
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途上位3種の、2種以上にB以上を使用し、Eは不使用		5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				2.6	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20	-	-		
3 電気設備				3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				2.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性	3.1 空間のゆとり			3.7	0.30	-	-	3.7		
	1	階高のゆとり	階高:5.522m	5.0	0.30	-	-			
		2		空間の形状・自由さ	5.0	0.60	-		-	
				5.0	0.40	-	-			
	3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-			
	3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-			
	1	空調配管の更新性	構造部材、仕上げ材を痛めることなく電気配線の更新・修繕ができる	3.0	0.20	-	-			
		2		給排水管の更新性	3.0	0.20	-		-	
		3		電気配線の更新性	5.0	0.10	-		-	
		4		通信配線の更新性	5.0	0.10	-		-	
5		設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-			
6		バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-			
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.1			
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0			
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0			
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0			
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-				
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-				
LR 建築物の環境負荷低減性				-		-	3.2			
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.1			
1 建物外皮の熱負荷抑制			1.0	0.20	-	-	1.0			
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0			
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm] = 0.75	4.0	0.50	-	-	4.0		
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0		
集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-	-			
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-				
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-				
集合住宅の評価				-	-	-	-			
4.1 モニタリング			-	-	-	-				
4.2 運用管理体制			-	-	-	-				
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.2			
1 水資源保護				3.4	0.20	-	-	3.4		
1.1 節水			節水コマ、節水型機器	4.0	0.40	-	-			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-			
1		雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-			
2		雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-			
2 非再生性資源の使用量削減				3.0	0.60	-	-	3.0		
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.11	-	-			
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.22	-	-			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.22	-	-			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			-	1.0	0.22	-	-			
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-	-	-			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			・躯体と仕上げ材が容易に分別可能(LGS下地) ・内装材と設備が錯綜せず、容易に取り外し可能(金属管)	5.0	0.22	-	-			
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.7	0.20	-	-	3.7		
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-			
3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.70	-	-			
1		消火剤		-	-	-	-			
2		発泡剤(断熱材等)	発泡剤を用いた断熱材の使用なし(GW)	5.0	0.50	-	-			
3		冷媒		3.0	0.50	-	-			
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.5		
1 地球温暖化への配慮			ライフサイクルCO2排出率:79%	3.8	0.33	-	-	3.8		
2 地域環境への配慮				3.6	0.33	-	-	3.6		
2.1 大気汚染防止			燃焼機器の使用なし(電気温水器)	5.0	0.25	-	-			
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	-			
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.5	0.25	-	-			
1		雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-			
2		汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-			
3		交通負荷抑制	自転車・車・荷捌き車両用の駐車スペース確保、駐車場導入路への配慮(各専用出入口)	5.0	0.25	-	-			
4		廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-			
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33	-	-		3.2	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-			
1		騒音		3.0	0.33	-	-			
2		振動		3.0	0.33	-	-			
3		悪臭		3.0	0.33	-	-			
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40	-	-			
1		風害の抑制		3.0	0.70	-	-			
2		砂塵の抑制		3.0	-	-	-			
3		日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-			
3.3 光害の抑制				4.4	0.20	-	-			
1		屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドライン、広告物照明の取扱いの過半を満足	5.0	0.70	-	-			
2		昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-			

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

不特定多数の方が利用する施設であるため、安全に配慮した設計を目指している。

Q1 室内環境

・ 建築材料は全てF☆☆☆☆建材を使用し、化学汚染物質による空気質汚染を回避した。

Q2 サービス性能

・ 環境衛生上良好な状態に維持するために内壁に防塵・ヨゴレ止めの塗装や、作業室や生ゴミ庫には防カビ塗装のうえ水勾配とし水を使用して洗浄可能な設計とした。
・ 物品、機器などの搬出入を多く伴うため、維持管理しやすいよう極力段差のない設計とした。

Q3 室外環境（敷地内）

・ 建物高さ、壁面位置、外装・屋根・庇・開口部・塀等の形状や色彩において、周辺のまちなみや風景にバランスよく調和させている。
・ 高温排熱の放出部を設置しないことで、敷地内歩行者空間等の暑熱環境緩和に配慮した。

LR1 エネルギー

・ 高効率の機器を採用し、省エネルギーに努めた。

LR2 資源・マテリアル

・ 節水コマに加えて、省水型機器を採用することで水資源の保護に努めた。

LR3 敷地外環境

・ 燃焼機器を使用しないことで、大気汚染防止に配慮した。
・ 適切な量の駐車・駐輪スペースやサービス車両の駐車スペースを設けることで、敷地外での路上駐車防止に努めた。
・ 歩行者専用、入口専用、出口専用の駐車場導入路を設け、出入りを円滑にすることで自動車が渋滞にならないよう配慮した。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称) TRIAL上熊本店

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		70
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				76.2	0.40	30.48
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	0.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	1.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	5.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				62.5	0.20	12.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				60	0.20	12.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				74.2	0.20	14.84
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.2	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数